

平和をねがう原爆展in春日部

～高校生が描いた原爆の絵～

2025年 8月23 (土) 24 (日)

ぽぽら月間イベント
21(木)～25(月)展示

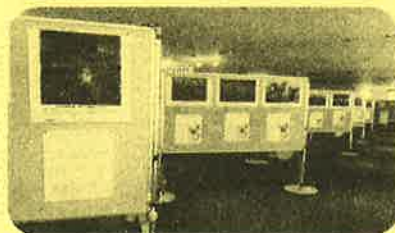
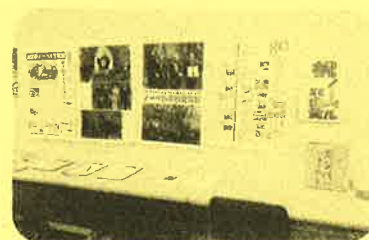
春日部市市民活動センター ぽぽら春日部4階



- ・ 高校生が描いた原爆の絵
- ・ 「原爆と人間」写真
- ・ 平和をねがううたごえ、手話ダンス
- ・ アニメ「おこりじぞう」上映
- ・ 被爆体験者の話（春日部在住の田中さん）
- ・ ノーベル平和賞「田中てるみさんの話」視聴
- ・ 絵本読み聞かせ
- ・ 広島・長崎の被爆者の話を視聴



平和をねがう原爆展



来場者の感想文集

【高校生が描いた被爆の実相の絵画について】

日本の戦争について考える上で、原爆の悲惨さがよく伝わってきました。國重さんの話を聞いた高校生の絵が、みな暗くどんよりした色で描かれており、自分が経験したような胸の痛みを感じました。現代の戦争にまでつながる原爆に、どれだけの被害があるのか恐ろしくなりました。

一刻も早く核兵器がなくなる平和な世界が実現するように願います。(10代未満)

戦争がいかに愚かなことなのかということを、より知ることができた。この事実を、今後の世代にも伝えなくてはならない。(10代)

実際に体験した人が減り続ける中で、こうした絵などのような媒体を通じて、原爆被害の悲惨さと平和への願いが、後世にまで受け継がれるべきだと思った。(10代)

これらの絵は、戦争はもう二度とやってはいけないと訴えているものだと強く感じました。若い世代には、こうした過去の出来事をあまり知らない人もいるかもしれないので、未来に語り継いでいきたいです。(10代)

戦争経験者の祖父から聞いたような内容(原爆投下後、全身黒焦げになった人がいたこと、皮膚が溶けたようになった人がいたこと、他にも沖縄戦で、洞窟の中で集団自殺をした人たちがいたこと)が、絵で表現されていた。とても胸が痛くなった。(10代)

「陸軍共済病院前の全景」という作品が、最も印象に残りました。10代の、毎日幸せに暮らしている私たちには、分かりえないひじょうに悲しい光景が、たしかにそこにあったことが、強く伝わってきました。

これからも、このようなイベントが増え、多くの人の目に留まり、世界に平和が広がっていくことを願っています。イベント開催の関係者さん、お疲れ様です。これからも頑張ってください。

(10代)

「変わり果てた友人」という絵画に、大きな印象を持ちました。顔がもう分らないほどに焼けただれてしまっているにも関わらず、二人が支え合うように向かい合っていて、命が奪われかねないような状況の中でも、人を思いやることのできる、人の心の奥底にある優しさを感じました。(10代)

「ああ、幽霊だ!!」、「原爆投下後、初めて行った学校」、「私が見た被爆直後の被爆者」などの絵画を見て、現在の自分たちが住む世界では、決して見ない光景ばかりで不気味さを感じた。同時に、戦争の恐ろしさを改めて実感した。(10代)

「私が見た被爆直後の被爆者(福島川河川敷)」という絵画を見て、被爆者たちが河川敷で悶え苦しんでおり、何かを訴えているような感じがしました。全体的に赤く荒れ果てた背景からは、被爆者たちの苦しみを感じられました。また、まるで近くでその光景を見ているかのような感覚も覚えました。

この展示を見て、少しでも被爆者の皆さんが幸せになれるように、私は募金などに参加していきたいと思いました。(10代 岩槻高校)

私はまだ高校生で、戦争など体験したこともなく、ましてや「死」を身近に感じたことすらないです。高校の授業でも「戦争で広島と長崎に原爆が落とされて、多くの犠牲者を出した」ということしか知らず、実際どのように亡くなったのか、どのような思いだったのかを、この展示で深く知ることができました。人としての原型すらとどめていなかったり、数えきれないほどの死体の山が描かれていたりして、たった 80 年前に、こんな悲惨な光景が広がっていたと考えると、怖ろしくもあり、悲しくもありました。

やはり、平和な時代に生まれたからこそ、二度とこのようなことが起こることがないように、後世に私たちが伝えなければいけないと思わせてくれた、素晴らしい展示でした。(10代 開智高校)

今まで生きてきた中で戦争を体験したことがないので、原爆については知識として知っているだけで、あまり想像できていませんでした。しかし、本日ぼらを訪れて、たまたま拝見した高校生が描いた絵画展示で、原爆の悲惨さをより一層深く知ることができたと感じました。絵と共に説明文を読むことで、原爆の惨状がさらにリアルに、分かりやすく伝わるいい展示会でした。

全身の皮膚がただれ落ち、助けを求めて彷徨う人々の様子は、被爆時の状況が鮮やかに描き出されていて、どれだけ辛く、苦痛を味わされたのか計り知れません。

人々が原爆について忘れることのないように、若い人たちが語り継ぐ必要があると思いました。

(10代 開智高校)

絵を見て、改めてどんなことがあったのかが分かりました。戦争は本当に恐ろしく、当時の人たちがどれほど辛かったのかが伝わってきました。想像もできないくらい悲惨で大変な時代だったのだと思います。

今の平和な日本がこれからも続いてほしいし、また、戦いのない平和な世界にもなってほしいです。(20代)

なんとなく知っていた出来事でしたが、絵で見ると衝撃的でした。被爆者の話を聞いた上でも、ほとんど自分の想像で描いた点で、素晴らしい取り組みだと思います。(40代)

絵そのものと、証言者の言葉をセットで観ることで、より深く理解できたと思います。知らなかったことも多く、例えば、燃えやすいように遺体はきれいに積み上げて焼いたとか、爆心地となっていなかった所でもこれだけの被害があったということも、添付された地図から知ることができました。

無念な気持ちを残して亡くなった方の思いが絵を通して伝わりました。また、それを思い出して高校生に伝える証言者の方の痛みも伝わり、胸が痛みました。それでも知ることが大切で、この感覚を覚えておくことが、平和への道だと思いました。よい機会をありがとうございます。

(新婦人 松本さん)

私は昨年広島に行き、原爆が投下された現地をこの目で見て、肌で感じてきました。話だけでは伝わらない空気感や重みが胸いっぱいになり、心が痛くなりました。

高校生が描いた絵からは、写真とは違うものを感じました。被爆者から話を聞き描いて、チェックをしてもらい、何度も何度も描き直して仕上げたということで、ただの想像やイメージだけで描いたものとは違い重みがあり、昨年現地で感じたものを再度感じました。

被爆地—広島、長崎の人たちと、他県の人たちとでは、学びや意識、知識などに大きな温度差を感じるので、私たちももっと学び、伝えていくべきだと思います。(今西さん)

戦争ほど悲惨なものはないと言いますが、高校生がその光景を絵で再現することで、学んでいけることが何よりですね。今日は来て良かったです。一人でも多くの人に鑑賞してもらいたいです。
(50代)

見たことのない情景を描くことは、どんなに難しかったことだろうと思いました。また、証言してくださる方の体験は、想像を絶します。

戦争の絶えない今、後世に残すこのような取り組みは素晴らしく、被爆者の思いを受け継いでくださった高校生の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。証言者の方も、辛い思いを言葉にしてくださり、また絵の監修もしてくださったということで、ありがとうございます。(50代)

私の人生において、周りにも被爆された人はおらず、絵で初めて被爆の実相が感じられました。衝撃的でした。追体験で描かれたということで、大変な苦勞だったようですね。しかし、伝えていくことは素晴らしいことだと思いました。

世界から核兵器をなくし、平和な世の中になることを望みます。(60代)

どの絵を見ても、目を覆うようなものばかりでした。戦後80年、この絵を忘れずに、平和が続くことを願うばかりです。

ウクライナやガザの人たちが、早く安心して生活できるようになりますように！！(60代)

政府が引き起こした戦争で、何の罪もない一般民衆が、たった一発の原爆でこうも無残に焼かれ、命を奪われていく姿を、「絵」を通してリアルに知ることができました。ただ単に「かわいそう」では済まされない、戦争を起こした者たちへの「怒り」を感じました。ここで命を失ってしまった者の思い、何十万の人々の言葉に尽くせない思いがあっただろうに……。この思いを無駄にしてはいけなかったと思いました。(60代)

高校生が描いた原爆の絵を見るのは3回目ですが、解説文をじっくり読んだのは初めてです。展示してくださってありがとうございます。より、絵と被爆者、作者である高校生の思いを伝えてもらいました。多くの人に見てもらえることを願います。(60代)

被爆者の方からお話を聞いて描いたとのことですが、どれもリアルで、痛さ、熱さ、うめき声が聞こえてくるようでした。

昨今、きな臭いニュースが流れています。戦争を知らない世代が大多数になっている中、体験・経験しなくても想像はできる、という証の絵だと思います。想像力を働かせて、辛い人、弱い立場の人に寄り添えば、戦争は回避できるのではないのでしょうか。

素晴らしい企画です。今後も続けていってほしいです。ありがとうございました。(瀬谷さん)

今年は時間をかけて、解説を読みながら見ました。その時の惨状を想像して苦しくなり、何度も休まざるを得ませんでした。(70代以上)

今日は時間をかけて、一枚一枚絵と活字のにらめっこで、涙と鼻水でマスクの中はグシャグシャでした。

自分の描きたい絵ではなく、見たこともない地獄絵を描くことの意味と、そこに伴う辛さが伝わってきました。今夜は、夢の中にも現れそうです。人に伝えることって、大変なことですね。

(70代以上)

こんなことが現実にあったということを、改めて見せられ、80年たった今、心に突き刺さるものがありました。今、平和に暮らしていることに本当に感謝です。この先二度とこのようなことがないようにと、心から思います。このことは、日本だけでなく世界の人たち、特に若者たちに知ってほしいです。

今日はここに来られてよかったです。(70代以上)

悲惨な広島の実相を、体験者の証言から絵で再現した高校生の作品。大変感動しました。世界では、今も戦争が行われ、広島は決して過去のものではないのです。(70代以上)

被爆体験者から聞いた話をもとに描いた絵は、どれも原爆の恐ろしさを、とても象徴的に描いていると思います。当時の被災者たちの無念さや怒り、悲しみが伝わってくる絵ばかりでした。

戦後80年を迎え、戦争の記憶がだんだんと薄れている今、こうした絵画展は、大変貴重なものであると思います。(70代以上)

被爆者の方々の「伝えたい」というお気持ちを感じました。戦争を知らない世代に、それをお話しになるということも大変なことだと思います。また、その光景を全く目にしたことのない高校生が、実在のこととして表現することは、本当に大変なことで、精神的に辛いこともあったと思います。

そうした方たちの努力で描かれた作品なので、多くの方々に見てもらい、「戦争をしない」という力になってほしいと思います。この原爆の絵には、その力があると思います。(70代以上)

このような絵のことは、青年劇場の「あの夏の絵」で知っていました。劇中の「怖かった」、「被爆者が差別を受けている」というセリフが印象に残っています。

高校生が被爆者の体験を聞くことは、「怖い」という思いもあったことでしょう。それを乗り越えて描いた絵には、魂を揺さぶるものがあります。(70代以上)

高校生の約10年間の取り組みと平和への思い、そして被爆者の思いが伝わってきます。広島市の平和教育に感謝です。(新婦人 大塚さん)

当時の話をお話しとして聞いたことは多々ありますが、その光景を絵として表したのを見るのは初めてで、高校生が描いたとは思えないほどリアルでした。とてもショックを受け、言葉が出ません。広島の平和記念館を見学した何十年か前の記憶がよみがえりました。(70代以上)

被爆者が勇気をもって語り伝え、高校生がその体験を見事に絵として完成させた。絵の完成度ももちろんだが、その真摯な姿勢に感動した。特に顔をアップで描いている作品には、迫力と言いやうのない悲しさがにじんでいるようだ。(70代以上)

80年の年月を経ても戦争の惨劇を伝え続けてきたことが、再び戦争を起こさないことに通じたのだと思います。(70代以上)

絵を描いた高校生たちは、よく描くことができたなあ。私なら、証言者の話を聞いて泣いてばかりで、描けない気がします。

それにしても、視覚に訴えるものは辛いです。こんな辛いことはありません。戦争はイヤ。核もいらない。(70代以上)

真正面から見つめられない作品ばかりでした。若い人にも知ってもらいたい気持ちはありますが、じっくり見つめなさい、とは言えそうもないです。それでも、こうした作品を知ってもらう方法を、何か考えてみたいと思います。(70代以上)

こうしたイメージ画でも、訴えるものや人の心に沁みるものがある。そして、怖さもある！
自分にも大切な人がいるだろうに、そんな人間が他者をこんな目に遭わせる。あってはならぬことだ。自分の身になって考えれば、できないことだと思うのだが……。 (70代以上)

「ヒロシマ～昇る魂～」には強烈な印象を受けた。死後も魂は残っているのだと思った。
(70代以上)

絵を見て、今まで想像していたものが一変しました。自分なりに学んできたのは何だったのか、衝撃も受けました。こうした破壊兵器による人の最期は、個人の判別さえできなくさせてしまう。

今、世界では戦争が起きているが、あの人たちがヒロシマのようになってほしくないし、絶対に止めなければと強く思う。(年代不明)

【イベントの総合的な感想】

手話ダンスが印象深かったです。(50代)

《市内在住の田中さんのお話から》

昨年日本被団協がノーベル賞を受賞し、今年は戦後 80 年という節目でもあり、関心が高まったように思います。被爆者の田中さんから直接話を聞いたのは、本当に貴重な時間でした。プリントもよく読み、他の人たちにも広げていきたいと思います。

被爆者の平均年齢も 86 歳を超えたそうですが、原爆が投下されたその日から、悲しみ、苦しみ、痛みを抱え、ガンの手術や皮膚の移植など、多くの苦労を重ねてこられたのでしょう。その上、差別やいじめまで受け、それを乗り越えて生きてこられたのでしょう。そのことを決して忘れないようにしたいです。(70代以上)

《日本被団協 田中熙巳氏の講演視聴から》

原爆や被団協のことを知らない人向けの話し方で、改めて 80 年間の取り組みや、ノーベル平和賞受賞のいきさつなど、分かりやすく認識できました。

その他の映像も見応え十分で、どれを見ても聴いても心が痛みました。(新婦人 大塚さん)

ウクライナへ侵略戦争を行っている超核大国指導者の、核による脅しなどで「核使用の敷居が一気に低くなってしまった」という言葉が印象的でした。残念ながら、それが世界でトップの軍事力を持つ国の姿勢です。また、「戦後 7 年間、米国 (GHQ) は原爆に関しての情報を一切隠ぺいした」という話もありました。彼の国は、原爆投下による大量殺人の非を認めていません。それどころか、戦争を終結させたとして正当化しています。現大統領にいたっては、先日のイランの核施設への爆撃を、広島や長崎になぞらえて、功績を誇ったりするような非常識さです。これも、もう一方の超核大国の姿です。そして、わが国の政府は 80 年たった今も、その国に言いなりで、そうしたことへも抗議一つできず、その核の傘の下、核兵器禁止条約にも背を向け続けています。そして、日本だけでなく、核保有国の核の傘にある国は複数あります。

もういい加減そうした核による権力の構図を変えなければなりません。しかし、日本で言えば、現在の政権与党には、そのことは期待できません。また、それ以上に気になるのが、過日の参院選において、自分の主張を批判した人に対して「非国民」とののしった候補者がいたり、「安全保障には核装備が安上がりだ」などと発言した候補者がいたりしたことです。そして、どちらも当選して国会議員になっています。さらに、そうした議員が所属する新興の極右政党が著しく台頭するという選挙結果にもなってしまいました。その政党を支持したのが、若い世代の層だったことにも危機感を感じています。

このイベントを通して、私たちが訴えてきている戦争や原爆被害の実相を、特に若い人たちにこそ、正確に伝えていくことの必要性を、より切実に感じました。

(60代 平和をねがう原爆展実行委員)

【平和や戦争・核兵器について】

私たち子どもが、笑顔でいられる未来が来るように、お互いを尊重し合うことが大切だな、と思いました。(10代未満)

原爆被害の実相を描いた絵画の展示を見て、戦争や核兵器について改めて深く考えさせられました。私は、平和とは「ただ争いがない状態」ではなく、「一人ひとりが安心して暮らせる状態」だと考えています。戦争は、国と国とが争うだけでなく、そこに生きる人々の未来や夢、家族との時間まで奪ってしまいます。核兵器は一度使われれば莫大な被害をもたらす、長い年月に渡って人々の健康や環境に影響を及ぼします。今回の展示を通して、核兵器は「抑止力」などではなく、「破壊力」でしかないということを改めて強く感じました。

しかし、現代の世界では、依然として核兵器を保有する国があり、争いも絶えません。平和は決して当たり前のものではなく、私たちが意識して守っていかなければならないと痛感しました。そのためには、まず過去の事実を正しく知ることが大切だと思います。原爆被害の実相を知ること、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを想像し、未来をどうしたらいいのかを、一人ひとりが考えるきっかけになると感じました。

私は、今回の展示を見て、「平和は人任せでは守れない」と学びました。身近なところから相手を思いやる心を大切に、互いの違いを受け入れられる社会をつくるのが、平和への第一歩だと思います。これからは戦争について学び、平和について考えたいです。(10代)

(高校生が描いた絵を見て)二度とこんなことは繰り返してはいけなと強く思いました。軽々しく「核武装を」などと言った、参政党の議員もいますが、許せないです。(40代)

展示会を拝見させていただき、ありがとうございました。絵を見ていると、戦争の悲惨さを改めて感じました。

また、戦争は遠い国の出来事ではなく、自分の心の中にある他者への憎しみなどの負の感情が、小さな争いを生み、やがて戦争に発展するのだということを自覚しなければならないと、強く思いました。

世界が平和であってほしいと、これからも祈ります。(40代)

戦後80年たった今の政府も、「戦争のできる国づくり」に向け、アメリカ言いなりのままに軍拡路線をひた走っている。その補完勢力である野党もときも許せない。政治の墮落や劣化が進んでおり、なんとも空しいものを感じる。国民も目先の利益だけでなく、真の平和と民主主義をものさしに

して、正していく力をつけなければならない。(60代)

広島の記事式典を見て、核廃絶への思いを益々強くしました。被爆国日本から大きく声を上げていきたいし、若い人に歴史を知ってほしい。学校で現代史をきちんと教えてほしい。(60代)

このような企画展を行っていただくことで、人々が平和と紙一重なのだと自覚できることに感謝です。今の日本の平和を改めて幸福に思いますが、世界での出来事にも目を向けて、一日一日を有意義に過ごします。(70代以上)

(高校生が描いた絵を見て) これでも核武装が安上がりですか。何が「女性は日本のお母さんになるのが望ましい」だ。自分のバカを棚に上げて国民をばかにするんじゃないよ!! (只野凡人さん)

高校生が勉強しているこの場所で、高校生の方たちも、「なんで」と感じてくれたらと願います。かつて広島や長崎を訪れて願ったり思ったりしたことが広がらないのが悲しいです。それでも、人生が残り少なくなった私も伝えていきたいです。みんな思っていると思うけど、戦争はだめです。子や孫が、戦争のない世の中で生きてほしいです。(70代以上 医療生協春日部)

以前、広島平和記念館で受けたショックはとても大きく、なぜ人間はこれほどまでに残酷になれるのだろうか、今も考えています。

父も、中国戦地へ長く出征し、現地で武装解除を受けたと聞いていました。けれども、まったく詳細な話を聞くことができず、早逝してしまいました。戦争とは、人が人でなくなるということを思い知らされます。今この時も、どこかで人が死んでいるのかと思うと苦しいです。

若い人たちをお願いします。良いことも悪いことも一人ではできないと思います。どうか小さな出来事に目をつぶらず、仲間と一緒に戦争につながる芽を、仲間と一緒に取り除いてください。

(70代以上 医療生協春日部)

戦後生まれで、もちろん戦後の大変な時期のことは覚えていません。現在、イスラエルとパレスチナ、ロシアとウクライナとの戦争が続く中、テレビのニュースのみの情報ですが、いつも心が痛んでいます。毎日なんとか早く解決を、と祈っています。何も助けてあげられないもどかしさも感じます。被害に遭っているのは、子どもや女性たちだというのも、とても辛いです。

核兵器のない世界になってほしいと思います。そして、世界が平和で仲良く暮らせるようにとも祈っています。(70代以上)

核兵器が不要で、戦争もないとなると、どんな世界が広がるのか。豊かな自然や人間社会に希望を。(新婦人 大塚さん)

広島平和記念資料館にも足を運んだことがあります。8月6日～9日前後のNHKの放送も見ました。被爆者の現実―被爆後の後遺症で長く苦しまれた方々の言葉を聞き、決してあの日のことを忘れてはならないと思いました。

戦争がなぜ絶えないのか、それを考え続ける必要があります。(70代以上)

あとかき

2025 平和をねがう原爆展 in 春日部

原爆展では新しい発見があり、やってよかったです。市長も来てくださいました。新しい人との出会い、感動もあり、地域の人々により深く関わって頂いたように思います。多くの人の心に平和の思いが伝わり、ふくらみ、うれしく思います。

共同代表 白井フミ子

日本は非核3原則（作らず、持たず、持ち込まず）を言い続けてきました。被爆80年の今年、気になったのは「核抑止」の言葉です。核保有こそ戦争回避のような幻想に騙されるな。核爆弾自体は戦争を起こさない、戦争は時の権力者・人間が起こすもの。世界に誇れる日本憲法の戦争放棄にこそ、ノーベル平和賞を受賞させたいものです。

共同代表 鈴木 明

「人間は、自分自身の体験以外から学ぶことのできる唯一の動物」で、歴史から学ぶことは私たち人間にとって極めて大切なことです。戦争を知らない世代が増える中で、高校生が描いた原爆の絵、被爆体験者からのお話（証言）、アニメ、映像など、そして平和を願う活動をしている人たちの平和を願う思いを通して、知識やイメージが豊かになることで「原爆はあってはならない」「戦争はイヤだ」という思いを強くしていただいています。

原爆展の取り組みは、草の根の活動として広がっています。継続は力だと感じます。平和を願う思いが“草の根”としてさらに大きく広がってほしいです。

共同代表 小菅 昇

「原爆投下が戦争を終わらせた」どころか、原爆投下は無差別大量殺傷力で旧ソ連、世界に誇示するものでした。生き残った被爆者は「原爆浴びたこと」を口に出せなかった苦しみの日々でした。「核兵器廃絶」は世界の人々が平和で楽しくらせる平和へのメッセージです。

共同代表 角田範夫

猛暑の中、ご来場ありがとうございました。また、感想アンケートも寄せていただき主催者一同大変励まされました。ご協力ありがとうございました。 実行委員一同